

今月のことば

他人に対しては
すぐ
裁判官になるか
自分に対しては
すぐ
弁護士になる

(小池秀章)

龍谷大学非常勤講師
小池秀章 こいけひであき

「自分のことは、自分が一番よく分かっている」

という人がいますが、本当にそうでしょうか。実は、自分で自分のことを見つめるということは、とても難しいことなのです。

真宗大谷派の僧侶である高松信英氏は、

「他人がやると大悪党に見えるが、自分がやった時には、必ずやむをえない事情があるのである。他人が罪を犯した時には裁判所の裁判官となり、自分が罪を犯せば弁護士にさっと変身する」(『雑草の輝き 歎異抄に学ぶ』より)と述べておられます。

私たちは、他人の行いに対しては、すぐに善悪を裁きます。そして、それがたとえ、小さな罪や失敗であったとしても、まるで鬼の首をとったかのように大げさに取り上げ、非難します。つまり、他人に対しては、すぐに裁判官になるのです。

しかし、自分自身の行いに対しては、どうでしょう。他人から罪や失敗を指摘されたとしても、これにはやむをえない事情があったから仕方が無かったと、すぐに言い訳をしませんか。つまり、自分に対しては、すぐに弁護士になるのです。

このように自分勝手に物事を見ているのが私たちですから、自分で自分を見つめても、本当の自分は見えてこないのです。よって、自分自身のありのままの姿を見つめるには、仏さま(真実に目覚めた者)の教えという鏡が必要なのです。

仏さまの教えを聞かせていただくということは、自分自身の姿を知らせていただくことだということを、忘れないでいたいと思います。

合掌